

FILTOM 生プラセンタエキスPPCFの優位性

優位ポイント	FILTOM 生プラセンタエキス	他社品	詳細
活性たんぱく質 EGF	完全非加熱で活性維持 出荷時のEGF濃度 100pg/ml	加熱処理で失活 酵素処理	加熱処理や酵素処理により活性たんぱく質はほぼ失活する。
サイトカイン、 ホルモン、ビタミンなど他の活性成分	非加熱のため活性成分の多くが温存される。	ビタミン類など熱に弱い成分は失活	活性成分の多くはFILTOMのPD膜分離(20nm)を通過し、温存される。
副作用などの 安全性	成分濃縮なし。 微量アレルゲンに対応した アレルギーテスト済で 高い安全性。	成分濃縮が起きやすい (エキス末)	成分濃縮は副作用の原因となりやすい。本来の濃度が維持されたPPCFは安全性が高い。

非加熱・加熱・酵素処理における活性成分
EGFの濃度比較

EGF (活性成分) pg/ml

胎盤



205

FILTOM生プラセンタ



148

加熱プラセンタ



28

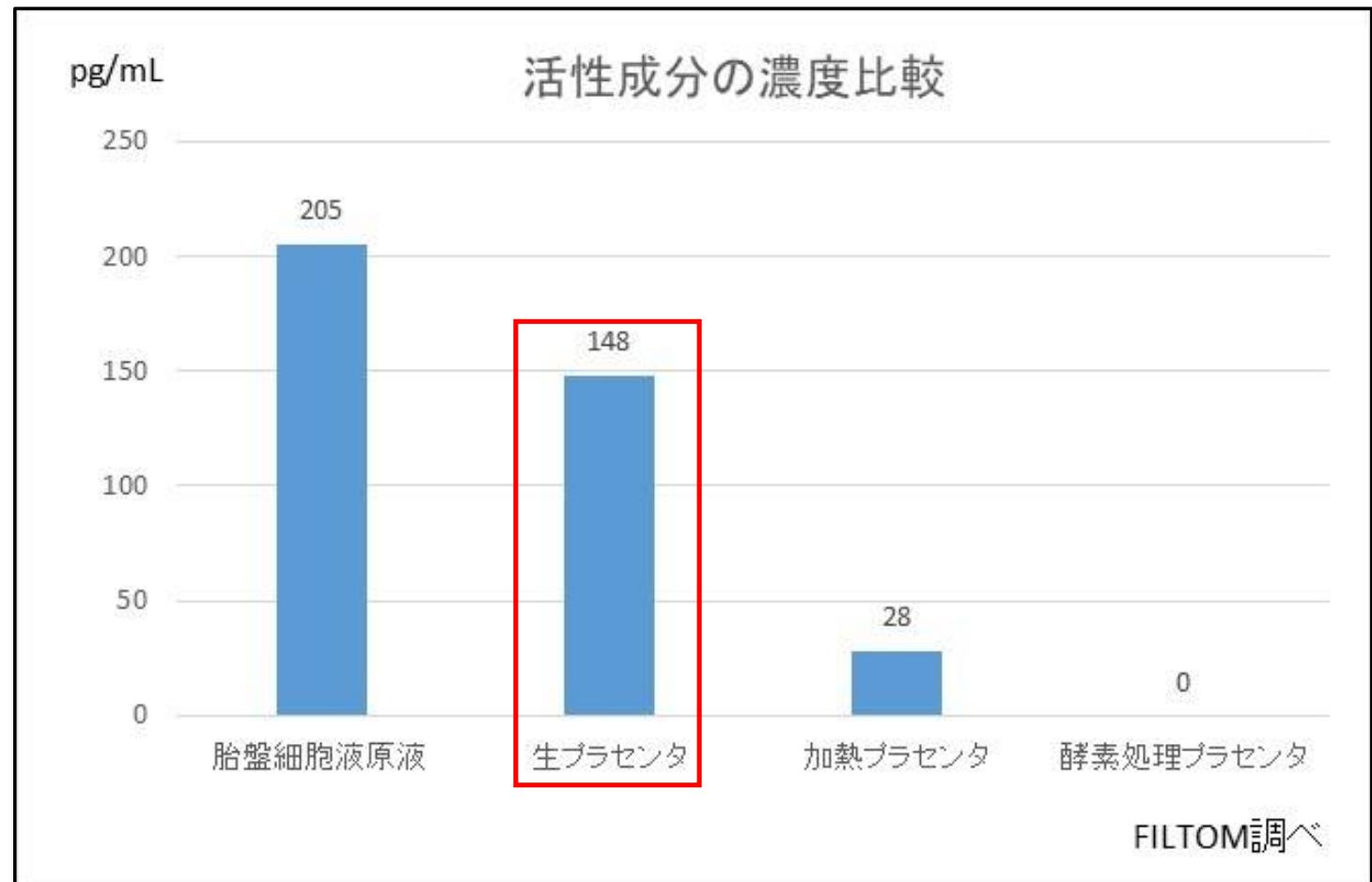
酵素処理プラセンタ



不検出

活性成分の濃度比較

加熱処理により活性成分のほとんどは失活します。これはサイトカインなど他の活性成分にも同じことが言えます。



生プラセンタエキスのアレルギー安全性

FILTOMは未知の微量成分にも対応できる最新のアレルギーテスト「イメージセンシング法」を北九州市立大学と共同開発し、生プラセンタエキスのアレルギー安全性を確認しています。

